

令和 3 年度 御幸が原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人権尊重の精神を基盤に，児童が多様な人々との「協働」を通して，自ら未来を創造し，たくましく生き抜く人間力の基礎を培う。

〈目指す児童像〉

「発見」：新しい知との出会いや初めての経験を通して，自分の可能性や仲間のよさを発見する児童

「挑戦」：明確な目標をもち，仲間と協力しながら困難な課題に取り組み，前向きに夢を追う児童

「創造」：日々の学びの中から，新しい自分や多様な価値観を生み出し，新しい時代を築く力をもった児童

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

・様々な社会変化に柔軟に対応し，新しい時代を生きる力を育成するため，児童自らが考え行動しながら自己表現できる機会の創生と，仲間との「協働」を通して豊かな人間性を育む教育活動を展開する。

・教職員が熱意と英知を集結し，児童の成長を願い，家庭・地域と連携しながら活気に満ちた教育環境を醸成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 児童が個々の力を発揮するとともに，仲間と互いのよさを認め合いながら，新しいことに挑戦し伸びていく機会の創出に努める。

(2) 教職員は児童一人一人の良さを認め課題に寄り添いながら，「褒めて励ます指導」を通して児童との信頼関係の構築に努める。

(3) 地域社会・保護者・地域学校園内小中学校と連携し，目標を共有しながら，地域教育資源の効果的な活用を図ることにより，「社会に開かれた教育課程」の具現化に努める。

(4) 「児童が課題意識をもって主体的に取り組む授業」を通して基礎学力の定着を図るとともに，対話型の課題解決学習を取り入れながら，知識を活用する力の育成に努める。

(5) 教職員が組織力を生かして課題に対峙し，支援の機能向上に努めるとともに，校務の改善や保護者ボランティアの効果的な活用を通して，教職員の勤務時間の適正化を図る。

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

・教育基本法，学校教育法及び同施行規則，小学校学習指導要領，栃木県教育委員会の基本方針並びに宇都宮市教育委員会の指導の重点，宇都宮市学校教育スタンダードを十分に踏まえ，調和と統一のある教育課程を編成する。

・学習指導要領の内容を踏まえ，今後の教育の在り方を見据えて編成する。

・各教科，道徳科，特別活動及び総合的な学習の時間の関連を図り，調和と統一の取れた編成に努める。

・前年度活動の評価や児童・保護者・地域の実態等を踏まえ，指導法の工夫や教育資源（人・地域・機関等）の活用に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が学校課題を共有し、方向性を明確にして解決に向かう学校組織の機能向上。 ○児童一人一人が自分の居場所をもち、仲間と認め合いながら、力を発揮できる場の創生。 ・地域社会への積極的な情報発信による信頼関係の構築と地域教育力の効果的な活用。 <p>【 学 習 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働して課題解決に取り組む活動を通した、強い意欲をもって学びに向かう力の育成。 ・習熟度別学習や ICT の効果的な活用による学習内容の確実な定着と理解の深化の追究。 <p>【 児 童 生 徒 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 認め励ます指導を通した自己有用感の涵養と、目標をもち活動に主体的に取り組む態度の育成。 ・規範意識（含授業規律）の高揚と、多様性を理解し仲間と認め合いながら伸びていく集団の形成。 <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が運動能力に関する自分の課題を知り、楽しみながら体力の向上を図る体育活動の充実。 ○「健康・安全」「食」に関する課題の把握と、実践力を伴う生活改善の意識の育成。 ・新型コロナウイルス感染の拡大防止に向けた、生活習慣の確立と、予防環境の構築。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価									
	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>漢字の読み書きや計算力の定着を図るため、指導を充実させる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の国算チャレンジタイムを活用した学習支援の充実（各学年に応じたドリルやプリントなど） ・宮っ子ステップアップシートの活用 <p>② <u>家庭学習習慣の確立のための工夫を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みはらっ子家庭学習の手引き」の活用 ・自主学习ノートの活用と啓発と保護者への協力依頼 <p>③ 話合いの仕方の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合いの意図的な設定と工夫 	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>91.3</td> <td>92.3</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>90.9</td> <td>96.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童、教職員ともに肯定的回答が9割を超え、昨年度より数値も上がった。コロナ禍でも学習内容を工夫し、学力向上のための支援体制を整えることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、引き続き多くの支援が入る体制を整えたい。 ・自主学习ノートの活用について学校全体で共通理解を図り、系統的・計画的に指導する。参考になるノートをPCで紹介し、意欲を高める。 ・話合いの仕方の指導について、発達段階に応じて段階的にスキルを獲得できるように、全校で学習スキルを整え、教室に掲示する、常に意識できるようにする。 		R2	R3	児童	91.3	92.3	教職員	90.9	96.6
	R2	R3											
児童	91.3	92.3											
教職員	90.9	96.6											

目指す児童の姿	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① どの子にも居心地のよい学級づくりを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uテストの実施、事例研究会実施、活用 ・授業や日常生活において、望ましい言葉づかいや相手を思いやる言動について指導していく。 <p>② 道徳の授業を通して、自他を大切に思う心や態度を養い、日々の生活に生かす力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業を充実させ、学級内や校内に道徳コーナーを設置し、授業後に学んだことをふり返ることができるようにする。 ・年間1回、授業参観時に道徳の授業を実施する。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>89.9</td> <td>93.7</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>93.9</td> <td>96.6</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・教職員の肯定的回答が90%を上回った。 ・各学級で、道徳教育を中心とした豊かな心を育む指導が行われた結果と思われる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より実施した友達を敬称（～さん）で呼ぶ指導を来年度もさらに定着させ、自他を大切に思う心や態度を養っていく。 ・次年度も引き続き道徳教育を中心とした豊かな心を育む指導を目指していく。 		R2	R3	児童	89.9	93.7	教職員	93.9	96.6		
		R2	R3											
	児童	89.9	93.7											
教職員	93.9	96.6												
<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 「みはらのきまり」をもとに全職員が同じ姿勢で指導や支援にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週の生活目標を行動目標として設定し、同一歩調で指導にあたる。 ・「みはらのきまり」や「めざせスーパーみはらっ子」との関連を図り、生活目標を設定する。 ・全児童がきまりやマナーを守って生活できるよう、委員会の活動をより充実させる。 <p>② 全職員の共通理解の下、全校体制で組織的に支援に当れるよう、報告及び情報交換を確実にしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の情報交換会や児童指導部会（毎月）の実施 	<p>【達成状況】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>84.1</td> <td>89.9</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>75.8</td> <td>93.1</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は90%に近づき、教職員の肯定的回答は90%以上で、両方とも昨年度を大きく上回った。 ・「みはらのきまり」について、全教職員で共通理解を図り指導にあたった成果と考えられる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざせスーパーみはらっ子」カードの内容ややり方を見直し、全教職員が同一歩調で指導していけるようにする。 ・委員会の活動内容を見直し、児童の主体的な活動を促していく。 		R2	R3	児童	84.1	89.9	教職員	75.8	93.1			
	R2	R3												
児童	84.1	89.9												
教職員	75.8	93.1												
<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・教職員・地域住民の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 児童会（計画委員会）が中心となってあいさつ運動を実施する。（毎週水・金曜日の朝実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や道徳の授業を通して、あいさつすることの意義について考えさせる機会をもつ。 ・「めざせスーパーみはらっ子」カードの活用 ・あいさつ標語・ポスターの募集 ・学校だより・学級懇談会であいさつ励行を保護者に伝える。 <p>② 地域連携及び地域学校園で共通課題として、あいさつ運動を展開する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>94.9</td> <td>93.2</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>75.8</td> <td>82.8</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>93.1</td> <td>94.7</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・児童と地域住民の肯定的回答は90%を上回り、教職員の肯定的回答割合も昨年度より7ポイント上昇した。日々の生活の中で、あいさつができると感じている教職員が増えた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざせスーパーみはらっ子」の取組みやあいさつ運動を通して、校内や地域でのあいさつをできるようにしていく。 		R2	R3	児童	94.9	93.2	教職員	75.8	82.8	地域住民	93.1	94.7
	R2	R3												
児童	94.9	93.2												
教職員	75.8	82.8												
地域住民	93.1	94.7												

A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート

「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

⇒⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

① 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。

② 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。

【達成状況】

	R2	R3
児童	86.0	87.9
教職員	87.9	93.1

・児童・教職員とも肯定的回答割合が上昇し、教職員では90%をこえた。

・児童が目標をもって取り組む機会を設定し、周囲からの声掛けや称賛によって達成感を味わうことができたものと考えられる。

【次年度の方針】

・各教科の授業や各種検定等をさらに充実させ、認め励ます指導を継続していく。

A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。

【数値指標】

全体アンケートの「児童は、自分の健康に気を付けて生活している。」

⇒保護者の肯定的回答 80%以上

① 昨年度の生活についての実態調査等をもとに基本的な生活習慣について（特に睡眠時間・食生活）、家庭との連携を図り啓発や指導をする

「ノースマホ・ノーゲームデーにおけるスマホ・ケータイ宮子ルール共同宣言 ver.2」を活用したルール作り…養護教諭との連携

② 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。

③ 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。

④ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。

【達成状況】

	R2	R3
保護者	87.2	89.5

・保護者の肯定的回答が90%に近づいた。基本的な生活習慣の啓発や、コロナ対策等の取り組みにより、保護者の健康安全への意識が高まったと考えられる。

【次年度の方針】

・コロナ対策や基本的な生活習慣の徹底については、養護教諭、栄養士と引き続き連携し、児童の発達段階に合った指導を行う必要がある。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。

【数値指標】

全体アンケート

「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

⇒⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育成する。

② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。

③ キャリアパスポートへ担任や保護者からコメントを記入する。

【達成状況】

	R2	R3
児童	86.0	87.1
教職員	87.9	93.1

・児童・教職員とも肯定的回答割合が上昇し、教職員では90%を上回った。

【次年度の方針】

・コロナ禍において家庭や地域との連携による体験活動が難しい状況ではあるが、様々な工夫をしながら、児童の一人一人が自らのよさを自覚できる活動や励ます指導を続けていく。

A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】

全体アンケート

「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」

⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

② 日常的に英語のあいさつやゲームを取り入れ、英語の絵本を図書室に置いたり、校内放送で英語の曲を流したりして、英語に親しむ環境を整える。

【達成状況】

	R2	R3
児童	78.7	87.1
教職員	78.8	93.1

・児童、教職員の肯定的回答は85%以上で昨年度よりも大きく上がった。コロナ禍でも、学習内容や形態を工夫して取り組んだことが、成果として表れたと考える。

【次年度の方針】

・担任とALTが連携を図れるように打ち合わせを十分に行ったり、教材研究を行ったりし、児童の主体的な活動を促されるよう指導の充実を図る。

・感染症対策を考慮しながら、コミュニケーション活動や授業形態を工夫する。

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。

【数値指標】

全体アンケート

「私は、宇都宮の良さを知っている。」

⇒児童の肯定的回答 80%以上

① 生活科、社会科、総合的な学習の時間(宇都宮学)の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市や御幸ヶ原町の良さに気付く指導に努める。

② 教師自身が宇都宮市や御幸ヶ原町の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。

③ 宇都宮に関わる図書資料を図書室に置いたり、新聞記事を活用した「宇都宮コーナー」を作成したりし、宇都宮に親しむ環境を整える。

【達成状況】

	R2	R3
児童	78.0	83.3

・児童の肯定的回答は80%以上で、コロナ禍において、できる範囲で昨年度より多くの活動ができたからだと考える。

【次年度の方針】

・感染症対策を考慮しながら、「宇都宮学」の内容を全学年において指導できるよう、年間指導計画の整備をする。

・児童が宇都宮の良さに身近に触れることができる環境を整える。(新聞記事を活用した「宇都宮コーナー」など)

A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。

【数値指標】

全体アンケート

「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」

⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。

② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の活用に努める。

③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。

【達成状況】

	R2	R3
児童	82.1	86.8
教職員	93.9	100.0

・児童、教職員の肯定的回答は85%以上で昨年度よりも大きく上がった。1人1台端末環境の下でのICT教育が始まり、試行錯誤しながら工夫して取り組んできた成果である。

【次年度の方針】

・GIGAスクール構想による一人1台端末を学習ツールとして活用するために、具体的な取組例や配慮すべき事項についてなどの研修を充実させる。

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。
【数値指標】
 全体アンケート
 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」
 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

- ① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。
- ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。
- ③ 総合的な学習の時間や各教科の授業等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。
 ・児童会による「感謝の会」の実施
 ・生活科における昔遊びでの交流

B

【達成状況】

	R2	R3
児童	89.9	93.7
教職員	93.9	96.6

・児童・教職員とも肯定的回答割合が上昇し、90%以上となった。
 ・地域の方や高齢者と交流する機会を設けたことで、感謝や相手を思いやる心が育った。
【次年度の方針】
 ・引き続き、全教育活動を通しての人権教育を充実させ、地域の方や高齢者に思いやりの心をもって接していけるよう指導していく。

A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。
【数値指標】
 全体アンケート
 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」
 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

- ① 総合的な学習の時間や児童会活動における環境教育を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。
 ・5年「地球にいいことはじめよう」での探究学習
 ・環境委員会を中心としたリサイクル活動の推奨
- ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。
- ③ 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。
- ④ SDGsに関する図書資料や掲示物のコーナーを作り、児童の関心を高める。

B

【達成状況】

	R2	R3
児童	82.1	85.8
教職員	42.4	72.4

・児童、教職員ともに昨年度より肯定的回答は上回ったが、教職員は72.4%と目標値には届かなかった。
 ・各教科や領域等での指導内容をさらに工夫する必要がある。
【次年度の方針】
 ・各教科や領域における環境問題や防災について、生活に結び付けた学習内容の見直しを行う。児童会活動では、環境委員会や健康委員会を中心に、活動内容が「持続可能な社会」実現にどう結び付いているか、活動の意義を考えられる指導を行う。

B1 児童は、本の楽しさを味わっている。
【数値指標】
 全体アンケートの「児童は、進んで読書をしている。」
 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上

- ① 読書意欲の向上のための環境整備・指導の充実を図る。
 ・読み聞かせの充実
 ・朝の読書タイム
 ・読書月間の実施（委員会）
 ・お話し会
 ・家読のすすめ【親子読書等】
 ・読書記録の活用
 ・必読図書の充実
 ・読書マッチョマンカードなどの多読賞
 ・新刊本、お薦め本の紹介
 ・本の予約やリクエストカードの活用
 ・市立図書館の活用
 ・図書館だよりの発行
 ・地域学校園との連携した取組（「鬼怒の本棚」の発行、共通のマナーやお話給食など）

B

【達成状況】

	R2	R3
児童	80.4	78.9
保護者	65.9	60.0

・児童、保護者ともに目標数値を下回った。家庭での積極的な読書ができていない現状が見られ、家庭での読書が習慣化されていない。
【次年度の方針】
 ・次年度も引き続き、全職員で共通理解を図り、児童の実態に応じて、適切な支援をしていく。
 ・家庭での読書の習慣づけの重要性の理解促進を図る。

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ・「チームみはらの特別支援教育」の推進</p> <p>② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の教育支援計画を作成し、それに基づいて合理的な配慮を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0</td> <td>96.6</td> </tr> </table> <p>・達成状況は若干下がったものの、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解が図れ、一人一人のニーズを踏まえた支援が組織的に行われていると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、全教職員で共通理解を図り、児童の実態に応じて、適切な支援をしていく。</p>		R2	R3	教職員	100.0	96.6		
		R2	R3								
	教職員	100.0	96.6								
<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① いじめの早期発見・早期対応のためのアンケートを実施し（年4回）、気になる児童への事後指導を行う。</p> <p>② いじめゼロ強調月間（5月・9月）の取組を実施し、いじめは決して許されないことを理解させる。 ・計画委員会の活動により、いじめ撲滅に対する児童の意識を高める。</p> <p>③ いじめ対策における学校での取組みを、学校だよりや学年だよりに掲載し（年2回）、保護者に伝え、連携を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>98.3</td> <td>96.7</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>77.8</td> <td>79.9</td> </tr> </table> <p>・児童の肯定的回答割合は95%以上であったが、保護者の肯定的回答割合は依然として数値目標を下回っている。 ・アンケートを基にした教育相談やいじめゼロ強調月間の取組みを行ってきたが、保護者に伝える機会が不十分であった。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、学校でのいじめ対策に関わる取り組みを、学校だよりや学年だよりを通して保護者に伝え、連携を図ることに力を入れていく。</p>		R2	R3	児童	98.3	96.7	保護者	77.8	79.9
	R2	R3									
児童	98.3	96.7									
保護者	77.8	79.9									
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ・「めざせスーパーみはらっ子」カードの活用 ・当番活動や係活動など、児童が活躍する場を多く設定する。</p> <p>② 教育相談、アンケート、QU調査等の結果を活用し不応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。</p> <p>③ いじめアンケートを活用し、学校生活への不安をかかえている児童の早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>97.1</td> <td>94.5</td> </tr> </table> <p>・児童の肯定的回答は94.5%で、数値目標を達成している。 ・教育相談、アンケート、QU調査等を行い配慮が必要な児童を早期に発見し、全教職員を通して情報を共有し対策にあたることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・不登校傾向にある児童に対して、組織的に早期の対応を行っていく。 ・学級内で児童同士が認め励まし合う機会を設定し、児童一人ひとりの自己肯定感を高める学級経営を行っていく。</p>		R2	R3	児童	97.1	94.5			
	R2	R3									
児童	97.1	94.5									

<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導・配慮（給食）に努める。</p> <p>③ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1015 163 1473 241"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0</td> <td>96.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>・達成状況は若干下がったが、実態に応じて適切な支援がなされていると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 ・継続して、外国人児童への必要な支援や、ニーズを踏まえた適切な支援を行っていく。</p>		R2	R3	教職員	100.0	96.6			
	R2	R3									
教職員	100.0	96.6									
<p>A17 学校は、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童が意欲的に活動できる学校行事の計画・実施に努めるとともに、児童会・委員会活動など児童の主体的活動を積極的に展開する。 ・代表委員会を中心とした委員会活動の活性化 ・学級での活動の充実 ・ふれあい班活動の充実</p> <p>② 異学年・幼児・高齢者・地域・学校支援ボランティアなどとのふれあいの機会や交流活動の充実を図る。</p> <p>③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。 ・「めざせ スーパーみはらっ子」カードの活用</p>	<p>達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1015 656 1473 775"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>87.2</td> <td>91.2</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>89.2</td> <td>89.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>児童の達成状況が4ポイント上昇した。保護者の評価も上昇している。</p> <p>【次年度の方針】 新型コロナの動向を見ながら、可能な限り、児童主体の活動や異学年交流、ボランティア活動の充実を図る。スーパーみはらっ子の活動も様々な方向から継続発展を考えて活動を継続し、子供たちを認め励ます指導を続けていく。</p>		R2	R3	児童	87.2	91.2	保護者	89.2	89.8
	R2	R3									
児童	87.2	91.2									
保護者	89.2	89.8									
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学校課題に沿って指導目標を明確にし、分かる授業を目指して指導法の工夫や教材教具の工夫に努める。 ・学習課題、「めあて」の明確化 ・分かりやすい板書の工夫 ・話し合い活動の充実 ・個に合わせたICT機器の活用</p> <p>② TTや少人数・習熟度別による指導を充実させ、成就感を味わわせるとともに補充のための学習を充実させる。（3学年～）</p> <p>③ 朝のチャレンジタイムでの担任以外の教職員の支援を計画的に行う。（全学年）</p> <p>④ かがやきルームでの個に応じたきめ細やかな指導により、安心して学習に取り組めるよう支援する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1015 1216 1473 1294"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>97.3</td> <td>96.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答が0.9%下回ったが、ほぼ肯定的な状況である。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も、分かる授業を目指して指導法の工夫や教材教具の工夫に努めるとともに、TTや少人数・習熟度別による指導を充実させる。朝のチャレンジタイムでの担任外の教職員の支援を計画的に行う。 ・担任とかがやきルームで連携を図り、チームで支援できるようにする。</p>		R2	R3	児童	97.3	96.4			
	R2	R3									
児童	97.3	96.4									

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート
「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」
⇒教職員の肯定的回答 85%以上

① 「チームみはら」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら一丸となって取り組むよう努める。

② 教職員の協働性を高めることに視点を置き、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について助け合える雰囲気大切に、気軽に相談し合う。

【達成状況】

	R2	R3
教職員	90.9	96.6

6ポイント以上の大幅な向上が見られた。

【次年度の方針】

チームみはらの合言葉のもと、継続して一丸となって同僚性を高め、協力体制のもと業務に取り組んでいく。

B

A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート
「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」
⇒教職員の肯定的回答 85%以上

① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。

② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。

③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。

【達成状況】

	R2	R3
教職員	78.8	75.9

3ポイント近く下がった。業務の効率化は難しい現状である。

【次年度の方針】

業務が物理的に減少しない限り、多忙感は解消されず、負担軽減はなされない。次年度以降も見直しは期待できない。「業務の効率化」を「業務のスリム化」または「業務の削減」という文言に置き換え、年度当初からこの観点で共通理解し、業務の一層の見直しを図っていく。特にICTの活用については、来年度以降も計画的に準備を進めながら、業務の効率化につなげていく。

B

A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。

【数値指標】

全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている。」
⇒教職員の肯定的回答 80%以上

① 地域学校園各部会・分科会毎に今年度の基本方針を受けた取組の充実を図る。

・各部会、分科会の進捗状況について情報共有する。

② 小中乗入れ授業の実施による中1ギャップの緩和を図る。

【達成状況】

	R2	R3
教職員	87.5	79.3

・8ポイント下がった。コロナ禍で会議等を持ってなかったことが反映していると思われる。

【次年度の方針】

・コロナ禍で難しい状況ではあるが、引き続き必要な情報共有を徹底していく。

B

A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。

【数値指標】

全体アンケート
「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」
⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上

① 地域に住む各種指導者の取り組みや特技を生かした活動を学習活動に関連させて、子供たちに豊かな体験を味わわせる。

② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を促し、地域の伝統的な行事に対して積極的に関わり、将来の地域の担い手として活躍する児童を育成する。

【達成状況】

	R2	R3
保護者	87.7	88.9
地域住民	93.1	100.0

両者ともポイントが上がった。

【次年度の方針】

地域住民の力を借りて、地域協議会での活動を一層充実させる。②の観点は、次項目の内容と重複しており、実際の活動そのものに関わることであるため、削除する。

B

<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 御幸が原小学校地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っている。</p> <p>② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用している。</p> <p>③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1015 165 1473 286"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>87.7</td> <td>88.9</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>93.1</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>両者ともポイントは上がった。コロナ禍においてもできる範囲で活動をしていた点が高い達成率につながったと思われる。</p> <p>【次年度の方針】 コロナの状況を注視しつつ、引き続き連携に努めていく。</p>		R2	R3	保護者	87.7	88.9	地域住民	93.1	100.0
	R2	R3									
保護者	87.7	88.9									
地域住民	93.1	100.0									
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険個所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>③ 感染症（新型コロナウイルス・インフルエンザ）対策、熱中症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1015 696 1473 817"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>96.9</td> <td>96.6</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.7</td> <td>89.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ポイントは若干下がった。昨年同様、今年度も感染症予防を最優先に校内での対応を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も引き続き安全を最優先に考えて学校の環境づくりに努めていきたい。その中で、学校支援ボランティアやSSSの活用を図っていきたい。</p>		R2	R3	教職員	96.9	96.6	保護者	90.7	89.3
	R2	R3									
教職員	96.9	96.6									
保護者	90.7	89.3									
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学習に必要なICT機器を整え児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段適切に活用する能力を育成できるよう、授業において週2回以上の活用を目指し、ICT機器の活用法を発展させる。</p> <p>② 学習に必要な図書等を整え、学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、教育課程に沿った学校図書館の環境整備に努める。</p> <p>③ 児童の読書意欲を喚起するために、図書室内外の展示コーナーを工夫する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1015 1249 1473 1370"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>82.7</td> <td>86.8</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>93.9</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>教職員は、タブレット導入により、積極的に活用していると考えている。児童の達成状況も3ポイント以上向上した。</p> <p>【次年度の方針】 ICTは、各学年の発達の段階に合わせて、学校と家庭との両方で積極的に活用していくことになる。使うことが当たり前になりつつある中、活用のタイミングや使うことでの質的な内容の深まりなど、追究していく必要が出てくる。図書との使い分けや両者をうまく活用することが課題となる。家庭への呼びかけも続けていく。</p>		R2	R3	児童	82.7	86.8	教職員	93.9	100.0
	R2	R3									
児童	82.7	86.8									
教職員	93.9	100.0									

	<p>B2 学校は、人権尊重及び自他の生命や存在を大切にしている児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生は、自分の話や悩み・相談などを真剣に聞いてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① どの子にも居心地のよい学級づくりを目指す。 ・年間1回、授業参観時に道徳の授業を実施 ・年間35時間、道徳の授業の実施 ・Q-Uテストの実施、事例研究会実施、活用 ・教育相談週間の実施</p> <p>② 人権教育を全校体制で推進し、自他を大切に思う心や態度・実践力の育成に努めるとともに、教職員対象の人権教育ワークショップを行い、教職員の人権意識も高めていく。</p> <p>③ 児童の困り感や保護者からの相談に対して、きめ細やかな対応を行っていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1015 147 1471 271"> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>95.7</td> <td>96.7</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>81.9</td> <td>90.4</td> </tr> </table> <p>・児童・保護者ともに肯定的回答割合が高まった。保護者では8ポイントも高まり90%をこえた。学校の対応や取り組みが理解されてきている。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も更に、児童の困り感についての保護者からの相談に対して、よりきめ細やかな対応を行っていく。</p>		R2	R3	児童	95.7	96.7	保護者	81.9	90.4
	R2	R3										
児童	95.7	96.7										
保護者	81.9	90.4										
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B3 学校は、「自分を伸ばし、仲間と伸びる児童」を育てる教育活動を工夫している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、『自分を伸ばし、仲間と伸びる児童』を育てるために、教育活動の活性化に努めている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童の発想を生かした児童会活動や、仲間と力を合わせて取り組む学校行事や学年行事の内容充実を図る。 ・あいさつ運動等、児童の発想を生かした委員会活動 ・児童によるスローガン募集と運動会運営 ・45周年行事の航空写真撮影デザイン画募集 ・児童集会の内容充実 ・募金活動等 ・チャレンジギネス等の活動</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1015 685 1471 808"> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>80.9</td> <td>89.1</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> </table> <p>地域住民は、本校の教育活動に大きな信頼を寄せている。保護者も昨年度から大きくアップした。コロナ禍でも、様々な活動を工夫して実施した実績を認めてくださった結果と考える。</p> <p>【次年度の方針】 次年度も、新型コロナウイルスの動向を見つつ、可能なかぎり児童の発想を生かした活動が継続できるように支援を続ける。</p>		R2	R3	保護者	80.9	89.1	地域住民	100.0	100.0
	R2	R3										
保護者	80.9	89.1										
地域住民	100.0	100.0										

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>・肯定的回答率は、児童・保護者・地域住民・教職員のほとんどの項目で昨年度より上回り、全体として学校教育に対する満足度及び達成感が高い。これは、コロナ禍にあっても、感染症対策を取りながらできることを模索し、教育活動を止めることなく進めてきたためと考えられる。また、地域協議会の組織の一部である学校支援ボランティアを始めとする様々な方々との連携協力により、学校教育活動が充実していたことの表れであろう。</p> <p>・学校生活の基本となる「児童は進んで学習に取り組んでいる」「児童は思いやりの心をもっている」「児童は決まりやマナーを守って生活をしている」「児童は時と場に応じたあいさつをしている」についての肯定的回答率が高い。児童一人一人を大切にしながら授業を行い、「みはらのきまり」や「めざせスーパーみはらっ子」カードを活用した基本的な生活習慣を身につけさせるための日々の声かけなど、全校体制で指導にあたってきた成果と考えられる。今後も、児童の実態に合わせた指導を心がける。</p> <p>・GIGAスクール構想元年とも言える今年度は、一人一台端末を学年学級の実態に応じて様々な形で活用してきた。回収機能を活用したアンケート、AI型学習ドリルを使用している学習内容の習熟、各自がそれぞれの思いを入力してクラス児童と共有している情報交換、児童が活動の様子を写真や動画で撮影し振り返りや次時の学習に活かすなど、できることを徐々に増やしてきた。そのことが、「ICT機器や図書等を学習に活用している」の肯定的回答率の上昇に繋がった。</p> <p>・その反面、本校独自の評価項目として掲げてきた「児童は、本の楽しさを味わっている」の肯定的回答率は、児童・保護者ともに昨年度を下回った。学校では一人一台端末に慣れるための時間を増やしたことで読書時間が減少したり、荷物の持ち帰りによる児童への負担を考慮して図書の持ち帰りを減らしたことで、家庭で読書を楽しむ機会が減ってしまったことによるものと考えられる。今後は、図書とPCのそれぞれのよさを活かしながら、活用する場面を選択させたり、本の楽しさを味わえる機会を増やしたりしていく。</p> <p>・「いじめへの指導」に対する保護者の肯定的回答率が上がってきているものの、依然として目標値には達していない。今後も、学校がさらに情報発信を行い、学校の取組を理解していただくことにより、保護者との連携を図っていく必要がある。</p>
--

7 学校関係者評価

児童・保護者・地域住民・教職員のほとんどの項目での肯定的回答率の上昇は、一昨年からのコロナ禍にあっても、感染症対策をしっかりと行い教育活動を滞りなく推進された、学校側のたゆまぬ努力の賜物であると考えます。これからもコロナ禍は続くものと思われるが、学校にはなお一層の指導をお願いしたい。

今年度も、学校からの呼びかけに応じて、多くの方が学校支援ボランティアとして活動した。子供たちのため学校教育に協力していこうとする思いが御幸ヶ原地区には根付いている。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○次年度も、「自分でよく考え、未来に向かってたくましく生きる子供の育成」のビジョンのもと、教職員がそれぞれの強みと熱意、英知を集結し、「児童が課題意識をもって主体的に取り組む授業」を通して基礎学力の定着を図るとともに、対話型の課題解決学習を取り入れながら、知識を活用する能力の育成に努める。

・GIGAスクール構想に関しては、次年度も一人一台端末を学年学級の実態に応じて様々な形で活用し、全職員で情報を共有しながらできることに挑戦していく。そして、コロナ禍にあっても学校と家庭・地域が連携協力できるように、一人一台端末を効果的に活用した授業や学校行事、家庭学習の在り方等を模索していく。

・いじめ・不登校については、学校から学校教育に関わる様々な情報を発信したり、家庭・地域の教育力を教育活動の中で効果的に活用できるよう協力依頼をしたりすることによって、学校・家庭・地域が連携をより強化し対応していく。また、生活習慣の乱れや自己肯定感の低さ等の課題も見られるため、すべての教育活動を通して自分のよさや多様な考えに触れ、自他の大切さを認識する機会を確保することで自己肯定感を高め、いじめや新たな不登校を生み出さないよう努めていく。